

第65回 市町村対抗「かながわ駅伝」競走大会 の展望
(資料提供 神奈川陸上競技協会)

川崎市の優勝奪回なるか

横浜市の8連覇を阻止した前々回にも勝るメンバーを揃えてきた川崎市は、松下 龍治選手(川崎市陸協)をエントリーしてきた。駒沢大学時代エースとして箱根駅伝に出場、3回の総合優勝に貢献し、黄金時代を築き上げた。卒業後は実業団の富士通に入社、ニューイヤ駅伝の優勝メンバーとして大活躍、昨年度から國學院大學の駅伝コーチとして学生を指導しながら一緒に走っている。最近こそ大きな大会には出場していないが実績のある選手だけに他チームとしては脅威である。また島田 健一郎選手(東京電力グループ)も故郷選手として戻り、主要区間を任されるのは確実である。また全国高校駅伝を走った平山雄大選手(多摩高)はスピードがあり、どんな走りをするか注目したい。女子は黒田麻紀子選手(秦野高)で堅い。全国高校駅伝、全国都道府県対抗女子駅伝の神奈川県代表でもあり、川崎市は前半で勝負し逃げ切ってしまう作戦を立てて来るであろう。

連覇を狙う横浜市は篠崎 昌道選手(日本体育大)の存在が大きい。箱根駅伝では8区を区間2位と快走し好調を維持している模様。今村 俊選手、今村 慧選手(プレス工業)の兄弟も練習に取り組む姿勢が素晴らしく期待がもてる。三田 翔平選手(城西大)の復調がうかがえるだけに面白い。最後まで縫れるようだと優勝経験の最も豊富な横浜市だけに優位と考える。

藤沢市は昨年、優勝候補に上がりながら序盤で躓き、終盤まで優勝に絡むレースが出来ずに終わってしまった。序盤の安定感が鍵を握るため、旧日産自動車陸上部の橘 明德選手(プレス工業)が加わり、オールプレス工業で臨む予定のようだ。門間滋選手、坂本智史選手と実力者を後半に温存し勝負に出ると見る。

前回、準優勝の相模原市は、大黒柱の座間 紅弥選手(日清食品グループ)が故障上がりで登録されず、前半は苦しい展開になると予想されるが、昨年6区を区間2位と大健闘した篠崎 洸太選手(警視庁)が今回も6区を予定し、どこまで追い上げ3強の一角を崩すことが出来るか注目したい。

茅ヶ崎市は最長区間の6区に石原 洸選手(新電元工業)を配置し、藤沢翔陵高校の若い選手の起用で確実に上位に入ってくると思われる。4位以降は混戦模様で、ベテラン選手で編成した平塚市も大きな崩れは考えられない。秦野市も同様に出場16回を誇る鈴木和成選手(秦野市役所)を中心に地元の利を活かし、各選手は力以上の結果を残すと思われる。

総合順位とは別に注目している選手は、大和市の五十嵐 祐太選手(専修大)。今年の箱根駅伝は、花の2区のエース区間を受け持ち、強豪相手に堂々と渡り合い、5人抜きの快走を見せた。ブレーキのない選手でどこまで実業団選手と戦えるか。また、長年6区の区間賞保持者であった海老名市の飯島 智志選手(海老名市陸協)の走りに期待したい。

町村の部について

昨年、葉山町を2分58秒と大きく引き離し力の差を見せつけて優勝した大井町のメンバーに変更はない。キャプテンでもある平野 泰輔選手（足柄上郡陸協）がチームをまとめ合同練習を計画的に行って大会に備えており、アクシデントが無い限り連覇が確実であろう。

2位争いが面白い。葉山町は絶対的なエース川村 駿吾選手（青山学院大）が今回もエントリーしている。箱根駅伝では7区を区間7位と好走しシード権獲得の立役者でもある。また、昨年のかながわ駅伝でも13人抜きを演じ、チームを押し上げる原動力となった。愛川町は長丁場に山口 優弥選手（愛川町役場）を起用し、アンカーでの激しい競り合いに持ち込めるか。駅伝は一人の力で勝つことは難しく、選手層が薄くともどこまで上位で粘れるか、チーム一丸となる事が大切である。

予想される各区間の選手と見所について

中学生区間の1区は全国中学駅伝において優勝した田奈中学の選手が出場しないため、レースは最後まで纏れ込むと予想される。全国都道府県対抗男子駅伝の神奈川代表として選ばれた横浜市の吉井 誠也選手（金沢中）が頭ひとつ抜けているが、相模原市の小町 昌矢選手（旭中）・三浦市の石井 健登選手（初声中）が秒差で後を追いついて最後まで気の抜けない争いとなる。

2区、先頭を走る横浜市は川崎市の島田 健一郎選手と藤沢市の橋 明德選手の激しい追い上げにあい、早くも3強の火花の散る戦いが始まる。横浜市としても簡単には首位を明け渡すことはできないだろう。他の市町村はこの3チームから離されるが、葉山町の川村 駿吾選手がどこまで上位に食い込んで来るか興味がある。

3区、川崎市が松下 龍治選手の起用で完全に首位に立ち、40秒近い差をつけ、独走となるだろう。横浜市も何とか2位をキープしながら後続に期待したいところ。

4区、女子選手の中で最高記録を持つ川崎市の黒田 麻紀子選手が更に差を広げられる。横浜市は中学生の松本 菜穂選手（緑が丘中）を起用する予定、全国都道府県対抗女子駅伝に出場し2年生ながら8区を区間9位と健闘した。高校生を相手に勝負できるか。藤沢市は尾形 ひとみ選手（東京農業大）の復調が鍵となる。横須賀市の高橋 舞選手（白鵬女子高校）、小田原市の鈴木 ひとみ選手（相洋高）の快走に期待したい。

5区、やや登りのコース、距離も短くどこの市町村も繋ぎ区間として高校生の配置を考えているが、藤沢市はプレス工業の選手で少しでも前との差を詰めようとしている。

6区、全長区間で最も厳しいコースであり区間賞争いが面白い。大和市の五十嵐 祐太選手、海老名市の飯島 智志選手、それに川崎市に90秒近い差で追う横浜市の今村 俊選手と昨年好走した相模原市の篠崎 洸太選手の争いと見る。

7区 昨年同様の逆転劇のドラマが起こるか、逃げる川崎市と横浜市との差が15秒、藤沢市も40秒差であれば逆転が十分に可能である。